

自蹊庵便り

令和二年 葉月

NO 145

（令和二年七月喜びごと悲しみごと）

京都は北山の裾野の八瀬にて、貴素の会、千葉は九十九里近く東金にては、夕ざりの茶事二日、朝茶一日を無事に終えました。

テレビのニュースでは、コロナウイルス連続二百人越えの最中での再開にございます。

自粛の念を心深くに痛み分け合うここちにて、参加者の皆様と共に、一人一人がしつかりとした責任の上に立つての一会一会にて、誠に誠にお人も時間も刻一刻、いとおしさと厳しさの上にあつての実現にございます。

祇園を歩きましたが、いつもは足許の石畳が見えない程の込みようです。令和二年のこの夏は、雨に濡れた石畳を一つ一つ数えて歩くほどにございます。

今頃はコンコンチキチキとお囃子やまず宵山の頃にございます。蘇民将来、邪気・

悪病を払う祭りならばこそ：の無念さ、石畳に涙落つる思い、京びとならずとも口惜しいことにございます。

厳しい世情だからこそ、智恵と工夫を結集して臨みたい：との思いから、拙庵では再スタートを決断いたしました。

消毒、マスクは当然、雨天でも可能な限り窓の開放、クーラーもつけ放し、亭主と客の阿吽の呼吸の如く、各自余念無く、自管理の御協力を頂いての働きにございます。

ウイルスという目に見えないものの戦いにおいては、一人一人の意識が大切かと存じます。油断なく、さりながら、一日を積極的に余念無く過ごすことに尽きると思っております。積極的に過ごすという事は出歩くということではなく、心の行動をしつかり持ち続けることと思っております。

京都・千葉・その他、各講座にお集まり頂

く皆様におかれましては、十分な自主管理のもと、今迄以上に気を引き締めて御参加くださいますよう、ここに紙面をもちまして改めて再度のお願いを申し上げます。

拙庵といたしましては、このような時にこそ出来ることを掬い取って、只々余念なく一日を生きること、それが明日への光明と思っております。

仕事柄、日本料理研究会にお世話になり、会長が四代にわたり現役でお世話になっているのは、私だけかと存じます。

料亭文化は、日本文化そのものです。バブルがはじけたときも一流の室礼を施した料亭が次々とつぶれ、痛ましい時代が記憶に残っておりますが、それらは人為的であり、人間さんが起こしたことで、それなりのリスクと手立てをもつての回復力にございますが、この度のコロナは世界中を震撼させ続けている中で、私達日本人は小さな島

国の中で培ってきた智恵と賢さを世界に示す役目があるように思います。

なぜならば、この度の九州の災害のように、日本という国は毎年災害に見舞われながらも、だからこそその底力と、共同体として助け合ってきた民族の血が脈々と受け継がれてきているはずです。

いつも口癖のように御参加くださる皆様に申し上げていることは、お一人お一人が主人公であると、御自分の中の主をしつかりと起こして客になり、亭主になり、はたまた半東になり、一会の調えをすること、このように、繰り返し申し上げてきたことが、殊の外、浸透しているようにも思いません。

お一人お一人の意識の高さに助けられております。

皆様もどうぞ、不要不急な外出は控えながらも、尊い恵みの一日をお過ごしください。精神までウイルスの空気感染に犯されることのなきよう、切に願っております。

ウイルスのついている隙を与えない一つの手立てとして、深〜い呼吸で一日を迎え、

夜また深呼吸を心掛けてみてください。常にマスクをしていると、深呼吸の大切さをもすれば忘れてしまいそうですものね…。

簡単で案外、免疫力の手立てになるように思うのですが、いかがでしょうか。

ここ二〜三年特に災害の痛ましさは胸のつぶれる思いにございます。この度の九州始め各地の豪雨は尋常でなく、被災にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

しかしこのような、まったくのうろろろおろおろとしか途方に暮れる中でさへ、悲しみを越えて力を養ってきた民族としてのDNAが受け継がれてきているはずです。

このしなやかさを備えた底力の強さはお一人お一人の体の中に、精神の中に必ず貯えてきているはずです。

日本民族としてのアイデンティティを、豊かな季節の彩りと共に育んできた民族、そしてその背中合わせに自然条件の厳しさをもうべない、智慧を養ってきた民族です。

そのしなやかで、かつ、逞しいDNAを今こそ發揮しなくては…と、皆様に呼びかけたいところです。特に未来ある若い人達

に…。私達八十歳前後の若い人は戦争を体験し、そこから這い上がり、生き残ってきた免疫力を持っております。しかし乍ら、只今の若人達は無限の可能性を誰もが秘めていながら、このコロナ世情に冒されつつあるように思えます。最も大切なことは老いも若きも精神まで、このコロナというウイルスに冒されてはならないということです。

日頃から私はよく波動という言葉を使います。そしてその波動は空気伝染してまいります。このような時こそ、爽やかな波動を、元気の気を放つ一日の過ごし方を、智慧と工夫で乗り越えたいですね。

令和二年という年も半分が過ぎました。後半の半年、私達一人一人の意識が勝負どころです。

皆様くれぐれも御留意の上、お健やかな後半でありますことを心よりお祈り申し上げます。

令和二年七月十八日

教室の予定

京都余慶庵茶事教室・柏・栃木以外の諸教室は、八月はお休みです。

新型コロナウイルス防止の観点から日程、内容が変更になる場合がございますので、御了承ください。

京都教室

(余慶庵・八瀬のまなびや)

七月二十九日(水) 〃

八月九日(日)の間在京します。

七月三十日(木)

午前九時〜正午

八瀬のまなびや(料理・菓子他)

午後一時〜午後四時

余慶庵(水屋・本席)

七月三十一日(金)

朝茶事

八月一日(土)

朝茶事

八月二日(日)

朝茶事

三日間共 開始 午前五時

席入 午前六時

終了 午前九時

八月四日(火)

利休会記を読み解く会

午前十時〜正午 講義

正午〜午後三時

会記料理再現食事と一服

会費 レギュラー会員 三千元

※全日通してこの会のみの参加者

は、単発会員に準じます。

単発会員 五千元

(講義のみの方は三千元)

八月五日(水) 八瀬のまなびや

しめし灰作り

会費 灰作りのみの単発者 五千元

全日通しの参加者は、三万

円の中に含まれております。

〇炉灰をお持ちの方は御持参ください。

い。無い方も参加可能です。

この機会に炉灰を持ちたい方は、

事前にお申し出ください。当庵出

入りの道具商を紹介いたします。

※連日参加者の会費について、

一日分は正規の会費、他の日は

一日五千元の研修費となります。

〇お詫びとお断り

コロナの影響による公演の変更の

関係上、勝手ながら朝茶の日程を

一日繰り上げさせていたいただきましたこと、お詫び申し上げます。

八月三日(月)

午後一時半〜午後三時 講演

NHK文化センター前橋教室

※当日、バーベキューを予定して
おりましたが、コロナ世情に鑑み、
自粛いたします。

なお、昼食は用意がございません。

利体会記を読み解く会

八月二十六日（水）

柏泉亭（柏グループ）

八月二十七日（木）

栃木農園レストラン

道志村スケジュール

○今夏道志村の水汲み小屋には、
左記の三日間滞在しております。
コロナの喧噪を忘れて、日がな
一日、道志村の水音を聴き、ゆ
ったりと過ごしていただきます。
一年に一度、水に感謝する会で
す。

八月十九日（水）

〽二十一日（金）

会費（宿泊、食事込み）

一泊二日 一万円

二泊三日 一万五千元

長月のスケジュール 東金教室

長月茶事（重陽）

九月十三日（日）

九月十四日（月）

九月十五日（火）

会費 一万円（レギュラー者）

一万二千元（単発参加者）

○連日研修者は、翌日は五千円参加で
す。

○宿泊希望者は、早めにお申し込みく
ださい。七名まで一泊二千元です。

京都教室

貴素の会（午前九時半〜午後二時）

九月六日（日）

九月七日（月）

季節の基本料理

会費 レギュラー会員

一日三千元、二日五千元

単発会員

一日五千元、二日七千元

九月八日（火）

八日（火）利体会記と再現料理

会費 レギュラー会員 三千元

※全日通してこの会のみの参加者
は、単発会員に準じます。

単発会員 五千元

（講義のみの方は三千元）

午前十時 講義

正午 再現料理・会食

午後三時 終了

九月九日(水) 自由学習及び

常備食作り等

会費 レギュラー会員 二千円

単発会員 三千円

柏泉亭(柏グループ) 利休会記

九月二十三日(第四水曜)

会費 五千円

栃木農園レストラン

口悦会・利休会記を読み解く会

九月二十四日(第四木曜)

会費 五千円

利休会記を読み解く会(目黒・羅漢寺)

九月二十六日(第四土曜)

午前十時から正午 昼食後解散

会費 五千円

湯河原教室

口悦会・利休会記を読み解く会

九月の湯河原教室は、観光による

道路混雑を考え、お休みといたします。

十月の教室をお待ちください。

編集子よりのお知らせ

NHKラジオ第二

「文化講演会」放送について

半澤先生が、八月三日に

京都教室を抜けて、前橋で

「一期一会のおもてなし」

季節を楽しむ茶事」

という演題で講演されます

この内容の一部が、NHK

ラジオで放送されます。

講演では、「コロナ禍をどう

生き抜くか」についても触れ

られますが、講演の一部を五

十八分に編集しての放送です

ので、演題の部分の放送が予

想されます。

良い機会ですので、是非、

御拝聴くださいますよう御案

内申し上げます。

NHKラジオ第二です

放送日 九月六日(日)

午後九時～午後十時

再放送 九月十二日(土)

午前六時～午前七時

※前橋の講演の予約は

締め切られております。